

明るい家庭づくり作文

家族の役割や家庭のあり方をテーマとして、広報かさおか8月号で募集した「明るい家庭づくり作文」に、1,996点もの作品をご応募いただきました。

優秀賞に選ばれた作品の中から、小見山 真くん（白石小学校 二年生）の作品「ふきそうじ」を紹介いたします。

ふきそうじ



小見山 真くん

ぼくは、夏休みに、ふきそうじをつづけました。ようち園のときから、ずっとやっています。はじめは、へたでした。ぼくは、ぞうきんを、ちやんとしぼれませんでした。しぼると、ろう下が、水びたしになってしまいました。そのときは、おかあさんにしぼってもらっていました。おかあさんに、

「おふろで、れんしゅうをしよう。」

と言われ、なんかいもなんかいも、しぼるれんしゅうを、しました。りょうぼうの手に力を入れて、ギョツとつよくまわすようにしぼれるように

なりました。おかあさんに見てもらおうと、

「しぼりかたが、よくなったよ。」

と言ってくれました。うれしかったです。ふきそうじのしかたは、まずはじめに、バケツに水を入れます。つぎに、ぞうきんをしぼります。そして、ろう下をふきます。足と手に力を入れて、足をしっかりとふんばります。ぼくの家のろう下は、長いので足がだるくなります。おかあさんと、

きょうそうをしたことがあります。そのとき、ぼくがかつたのでうれしかったです。冬には、バケツの水が、とてもつめたかったです。手が、赤くなっていました。なんかいも行ったりきたりするので、

体はあたたかくなりました。夏休みは、水がつめたくて、気もちがよかったです。ぞうきんをあらうと、水がすこしずつにごつてきました。あまりよごれていないと思っていたので、ふしぎな気もちがしました。おかあさんに、

「水がこんなににごつたよ。」

と言うと、おかあさんが、「ろう下のごれが水にとけたんよ。その分、ろう下がピカピカになったんだね。」

「明るい家庭づくり作文」優秀作品

学校名	氏名	題名
金浦小学校 1年	うえだ 田 爽	おとうとのかいくん
白石小学校 2年	こみやま 小見山 真	ふきそうじ
今井小学校 3年	こばやし ゆうた 小林 祐太	ぼくとソフトボール
金浦小学校 4年	つかもと しゅんべい 塚本 俊平	ぼくの計画
神内小学校 5年	おおもと りお 大本 梨央	がんばっておじいちゃん
新山小学校 6年	たかぎ たくや 高木 拓也	家族とソフトボール
大島中学校 1年	やまぐち きさき 山口 紗生	私と卓球
神島外中学校 2年	ふじわら あきこ 藤原 亜希子	祖父の手伝い
神島外中学校 3年	さかもと ゆきえ 坂本 幸栄	祖父
笠岡小学校 保護者	かりの 狩野 恭子	心の聖火を握りしめ ゴール

【敬称略】

と言いました。ぼくは、なんだかうれしくなりました。ぼくは、学校でも、ふきそうじ名人です。ぞうきんのしぼりかたや、ふきかたを一年生に教えてあげたいです。これからもろう下のふきそうじを、ずっとつづけたいです。

